

●事例●

初年次導入時期における ピア・サポートの取り組みと今後の課題

橋村 勝明

(広島文教女子大学 学生生活支援委員長)

I はじめに

広島文教女子大学（以下、本学）では、平成一九年度より入学直後の時期に学生によるピア・サポートの取り組みを実施しています。大学に入学したばかりの新生生にとっては、どの授業を履修すればよいのか、資格を取得するためにはどうすればよいか、チューターの先生の役割は何か、行きたい教室はどこにあるのかなど、わからないことばかりだろうと思います。これらの内容については、新生生に対するガイダンスにおいて説明されますが、新生生全員が十分に理解することは困難であろうと思います。このようなときに、本学ではチューター制度を導入しており、

各学年学科の学生のチューターに尋ねることが出来ます。また、教職員も問い合わせに対しては細やかな対応を常に行心掛けてはいますが、疑問に感じたことを入学直後に大学教員に尋ねることに抵抗を感じたり、また新年度早々の混雑する事務室で問い合わせることをためらったりする学生も居ようかと思えます。

そこで、新生生にとっては年齢的に極めて近く、また自分が必要とする情報を持っている存在として「先輩」を挙げる事ができます。その先輩たちが、新生生の疑問や不安に答えてくれるならば、よりスムーズに高校生活から大学生活に移行することができるようではないか、そのような思いから学生による学生のサポート、「不安を抱える新生

生に対する在校生（ピア仲間）による支え（サポート）、「すなわち「ピア・サポート」を導入しました。

Ⅱ 本学に於けるピア・サポートの概要

i 目的

入学直後の新入生を対象に、先輩による相談窓口を設けることにより、以下のような効果を期待できると考えています。

- ① 新入生が早く大学に慣れ、充実した学生生活を送ることができると。
- ② 学生同士の仲間・関係づくりを支援することができる。
- ③ 問題を抱える新入生を早期に見出し、適切に対応することにより、休退学・不登校の予防につながる。
- ④ 在学生サポーターは上級生としての自覚や人の役に立っていることによる充実感を得ることができる。

また、入学直後の時期は人間関係が極めて希薄になりがちな時期であり、そのような中他者とのコミュニケーションを図ることにより、

- (a) 地方出身の学生を応援する同郷者の集い
- (b) 先輩と知り合うきっかけ作り
- (c) 仲間づくりにもつながる縦割り効果

(d) 学科間の交流

(e) 教職員と学生のコミュニケーション

などの効果も期待することが出来るのではないかと考えています。特に本学は近隣の大学と比較して他県出身者の割合が多く、同郷であることがきっかけで人間関係が形成されることがあります。このような活動を通して、大学生活が有意義で充実したものになり、将来的には卒業後の人間関係を形成するということまで繋がって行けば、例えば就職活動の支援などそれぞれの節目で人と人との出会いの大切さを実感してもらえないかと考えています。以上のような、学生相互の教えあい、学びあい、助けあう力を高める人づくりができるという副次的な効果まで生み出せれば、この取り組みの価値は更に高まって行くだろうと思います。

ii 実施方法について

本学ではピア・サポートを入学直後の時期に設定し、相談窓口を設置する形で実施しています。その相談窓口を設置するに至る過程について概略説明します。まず、新入生（編入生）の適応援助をめざし、学科ごとにボランティアとして学生サポーター（ピア・サポーター）を選出しま

す。選出に際しては、各学年からの選出が望ましいとして
います。また、ピア・サポーターのアドバイザーとして、
学科の教員及び学生生活支援委員会がサポートを行うこと
としています。

具体的な実施方法・内容は、以下の通りです。

一．ピア・サポーターの募集

毎年一月初旬頃に、各学科の学生生活支援委員が募集を
行う。また、要望があれば、学友会（本学学生自治会）の
学生からも募集する。

二．事前研修会

ピア・サポーターとして参加する学生に対して、「ピア・
サポーター研修会」を実施する。実施日は例年一月末とし
ている。研修内容と実施担当は以下の通りである。

○「ピア・サポーターウィークのねらいとピア・サポーター
の役割」
..... 学生生活支援委員会

○「学生相談に関わる相談への対処と留意点」
..... 学生相談室

○「履修に関わる相談への対処と留意点」
..... 教務委員会

○質問の時間

※研修会では、上記講習の他、相談窓口がそれと新入生
に理解されるよう、また親しみやすい雰囲気を出せる
ように趣向を凝らした飾り付けがなされる。

三．事前広報

ピア・サポーターウィークの実施について学内に掲示する
とともに、入学式直後のチューターガイダンスの際に掲示
と同じ内容のプリントを配付し、新入生に対して周知を
図る。

研修内容は、大学に入学したばかりの新入生にとって不
安に感じるであろう事柄について実施しています。内容と
しては大きく学生生活全
般・人間関係・履修登録関
係となります。履修登録関
係については、相談者とピ
ア・サポーターが同じ学科
であっても、学年が異なれ
ばカリキュラムが異なる、
ということが生じます。そ
こで、履修登録の研修を受
講することによって、新入



ピア・サポート研修会の様子

特集・ピア・サポート

生のカリキュラムについて熟知してもらおうことになりま
す。ピア・サポートを行う学生にとっても大きな負担にな
ることがないように、配慮しなければならぬと考えてい
ます。特に心理的に負担を感じると思われる内容は、人間
関係についての相談があったときであると思いますが、研
修会では学生相談室内の心理学科教員が担当しており、
様々な相談ケースを想定しての研修がなされています。研
修会は午前及び午後と一日実施され、研修会後には修了証
書とネームプレートとが手渡されます。ピア・サポーター
となるには、このような研修会を受講しなければなりません。
そうすることによって、ピア・サポーターとしての自
覚と責任感を持って新入生に接してもらえることを期待し
ています。

iii 実施期間について

実施期間については、初年次導入時期に於けるピア・サ
ポートという観点から、先に入学式直後より実施してい
ると記しましたが、ピア・サポーターとなる学生の授業時間
の関係もあり、平成一九年以降の四回で少しずつより良い
実施期間の設定を模索してきました。昨年度までの実施期
間は次の通りです。

平成一九年度 四月五～一六日（二・一三日を除く）
平成二〇年度 四月二・四・七・九・一一・一四・一六・一八日
平成二一年度 四月二・六・八・一〇・一二・一四・一六・一八日

平成一九年度の一二・一三日は、オリエンテーションセ
ミナーを実施しており、それを除く毎日（但し週末を除
く）実施していました。平成二〇・二一年度は、平成一九
年度と比較すると若干日数が減っていますが、これはオリ
エンテーションセミナーの日程が五月へ変更されたため
で、人間関係を形成する、という観点からピア・サポータ
とオリエンテーションセミナーとで連携を図ることが出来
るので、それに合わせた実施期間となっています。



ピア・サポート窓口の様子

表1 実施期間及び相談件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
期間	平成19年4月5日(木)～4月16日(月)*4月12日・13日はオリゼミのため実施しない	平成20年4月2日(水)、4日(金)、7日(月)、9日(水)、11日(金)、14日(月)、16日(水)、18日(金)	平成21年4月2日(水)、6日(月)、8日(水)、10日(金)、13日(月)、17日(金)
時間	12:20～13:10	12:20～13:10	12:30～13:00
場所	2号館1階ホールエントランス	2号館1階ホールエントランス	2号館1階ホールエントランス
ブース	5学科・学科別ブース	5学科・学生会 学科別ブース、学生会ブース	5学科・学科別ブース
相談人数	94名	66名	9名
相談件数	70件	43件	9件

ピア・サポートの相談窓口は、上記日程の内、昼休憩の時間帯（本学の場合、一二・二〇～一三・一〇）に設定致しました。場所は、本学食堂のすぐ側、人通りの多い場所としました。相談窓口には、各学科二名程度のピア・サポーターを配置し、新入生からの相談に対応します。受け付けた相談内容と、それに対するアドバイスについては、所定の様式を作成し、事後用紙に記入・報告をします。また、アドバイザーとして学生生活支援委員二名を毎日配置し、必要に応じてピア・サポーターを補助することとしました。

期間中、ピア・サポーターと教職員は、ネームプレート

を着用しピア・サポートスタッフであることを表示します。ネームプレートは学科・所属別に色分けをし、どのスタッフが自分の所属する学科の教員、ピア・サポーターであるかを新入生が判断できるようにしています。

iv これまでの成果

本学では、先に記しましたように平成一九年度からの実施で、本年度で四回目とまだ充分な経験と情報の蓄積があるわけではありません。いわば、本学の新入生にあわせた最も良い実施方法を模索している状況であるといっても良いだろうと思います。上段に表1として、平成一九年度から昨年度までの相談人数及び相談件数を掲げます。

平成一九年開始年度から徐々に相談件数が減じていることが窺えます。これは、相談窓口の設置形態やオリエンテーション・セッションの実施時期、新入生に対する広報不足、その他複合的な要因によるものであろうと考えられます。しかしながら、この取り組みの目的に、新入生が大学生活に速やかに馴染むことその他、人間関係作りを掲げるのであれば、相談件数が減じているという事実は問題としなければなりません。

Ⅲ 今年度の実施の概要と結果

ピア・サポートの相談件数が年々減じているというなか、本年度は主として二つの改善点を挙げ実施しました。その改善点によって、相談件数の増加を見込みました。改善点の一つ目には相談窓口の場所、二つ目には相談時間の延長です。

まず、一つ目の相談窓口の場所についてですが、表1に記しております場所は常に多くの学生が行き交う場所で、そこを相談窓口としていました。ただ、そのような場所では気楽に簡単な質問であれば出来ませんが、人に聞かれるのはどうも、というような内容についてはなかなか聞きにくい側面もあります。そこで、本年度は従来よりもやや目立たない場所に相談窓口を設置しました。

次に二つ目の相談時間の延長についてですが、従来は昼休憩の時間帯のみとしていましたが、ゆっくりと相談したいという要望もあるのでは、という配慮から開設時間をピア・サポーターの授業のない時間を調整し、基本的に九〇分単位で開設することとしました。また、その開設時間は授業開始の九・一〇から一八・〇〇の間のピア・サポーターの空き時間としました。実施期間は、平成二二年四月七

日(水)から四月二三日(金)の約三週間実施しました。実施日数は、のべ二日間でした。

以上のような変更の結果、本年度は二名の新入生が相談窓口を訪れました。その相談内容の分類は下の表2に記しました。

相談内容としては、やはり履修関係が多いことが分かります。高校とは異なり、授業を自らが組んで行く、時間割を作つてゆくということに不慣れなせいであろうと思えます。これまでも同様の新入生を対象としたアンケート調査を行ってきましたが、相談内容の点では年度ごとに大きく変わることはありませんでした。

今年度のピア・サポートの実施に関して、新入生の目線で評価が出来るであろうということから、ピア・サポーターにもアンケート調査を行

表2 相談内容 相談内容の分類 (平成22年度実施分)

履修関係	大学生活関係	資格関係	日常生活関係	その他
件数 8	4	3	3	3
例 ・卒業単位について ・教養科目の履修 単位数 ・履修登録システ ムの使い方	・プリントのまとめ方 ・テキストの買い 方(プリントの見 方)	・小学校の資格科 目について ・教員採用試験に ついて	・アルバイト・ポ ランティアにつ いて ・一人暮らしにつ いて	・TOEICについ て 他

表3 ピア・サポーターへのアンケート結果

研修会の時期の適切さ			
はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
18	0	0	1
研修会の内容について			
わかりやすい	難しい	どちらともいえない	無回答
17	1	1	0
ピアサポートの実施時期(4/5~4/23)の適切さ			
はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
19	0	0	0
ピアサポートの実施期間(約3週間)の適切さ			
はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
18	1	0	0
場所の適切さ			
はい	いいえ	どちらともいえない	無回答
2	12	5	0

ことが良くないと判断していることが窺えます。ピア・サポートの実施主体である学生生活支援委員会のねらいが、学生目線からすると、ねらいが受け入れられなかったのだろうと考えます。このことは、ピア・サポーターが新入生に近い存在であるだけに重要視しなければなりません。

つています。その結果を上表3に示しています。アンケート内容は、上記五項目について行いました。それらの内、「場所」については目立たない場所である

IV まとめと今後の課題

本学に於けるピア・サポートの取り組みは以上に記したものです。この取り組みは既に記しましたように、年間を通した活動ではなく、新入生を対象とした導入時期に限定したものです。高校生からスムーズに大学生へと移行してゆけるよう、また大学生活にも馴染めるように意図したものです。

しかしながら、これまで概要を述べてきましたとおり、多くの課題が残されていることも事実です。そこで、今後の課題として考えられる事柄の概略を以下に列記します。

新入生の利用時間帯に偏りがみられたので、ピア・サポーターの負担を減らす上でも実施時間帯を再考する必要があります。本年度の利用者が四コマ目(一四・一五〇〜一六二〇)に集中していること、昼休憩に実施していた昨年度までの実績を考慮すると、ピア・サポートの実施時間帯は昼休憩から五コマ(一一二二〇〜一八二〇)の間に実施するのが効率的と考えられます。

次に、教科書を買うに來る新入生や学習支援室との相乗効果を期待して書籍売店前で実施しましたが、ピア・サポーターの意見を踏まえると、来年度の実施場所については

再度検討する必要があると思われる。また、学内LANでの掲示、相談用ブース付近と学生サポート課の掲示板にポスターを掲示するだけでは周知方法として不十分であった可能性も考えられます。各学科の掲示板にもポスターを掲示する等、周知方法を改善する必要があるかもしれません。

相談窓口の開設期間及び時間については、オリエンテーションセミナーについての相談ができるようにとの配慮から今回の実施期間を設定したのですが、相談内容を見ると設定意図とは異なるもので、オリエンテーションセミナーについての相談はありませんでした。オリエンテーションセミナーについての相談を主目的にするのであれば、オリゼミの前後に実施期間を設ける方が、今回実施した期間とはまた別に設定した方が、目的に即したピア・サポートができるのではないかと考えます。

学生相談室、学習支援室、チューターなどとの関わりをどのようにしていくのかということも、引き続き考えていかなければならないと考えます。これらはそれぞれの役割分担の線引きが難しく、またそれぞれの役割が重複している部分も多いという現状があります。そのなかで、ピア・サポーターはどこまでの支援をするのか、ということ

す。

過去三年間の取り組みから大きく変更して、今年度が初めてを試みなので、これからまた新たな課題が出てくると思いますが、新入生が少しでも早く大学に慣れ、快適なキャンパスライフを送れるように、ピア・サポートも形を変えながら、新入生の励みになるよう取り組んでゆきたいと考えています。